

横浜市立深谷中学校 平成30年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 学習習慣が身に付いていない生徒が多く、学習の必要性や意義を理解させる必要がある。
- (2) 基礎学力の定着に課題がある生徒が多く、学校全体で授業内外における基礎基本を定着させるための取組が必要である。
- (3) 教員は授業改善に向けて意欲をもって取り組んでいるが、生徒に学習意欲を持たせるためには、さらに全教科等で授業改善のための組織的な取組が必要である。
- (4) 地域と学校の関係は密接であり、学習ボランティア等学力向上に向けた具体的な取組案について、地域と連携して取り組んでいくことも検討していく必要がある。

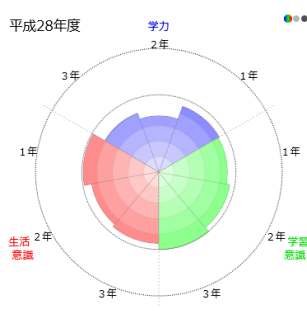
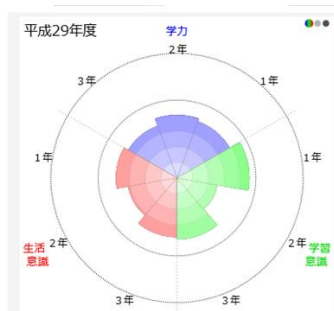
2 中期学校経営方針

学力向上に関する指導の目標・方針

「見通す・振り返る」学習活動を取り入れることを心がけ、「主体的に学習に取り組む態度」を育みます。研究と研修の効果的な実施により、授業力・教師力の向上を図り、学び続ける教職員を目指します。

- 子どもの興味・関心や特性等を理解し、それらに応じた指導方法の工夫改善を図る。
- 少人数指導やT Tを効果的に活用し、基礎基本の充実を図る。
- 放課後の学習会の充実を図る。
- ICTや学校図書館の活用等の充実を図る。
- 子ども像の共有化、指導の工夫に向けた双方向の授業見学、合同授業研究会の実施

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成29年度の実態把握



全体的に、横浜市の平均を大幅に下回る状況である。新3年生は学校事情もあり、学習意識と生活意識がかなり低下しているが、学力の低下はそれほどではない。新2年生は、国語、理科、音楽、美術、保健体育で学習意識が高く、市の平均を超えている。学校の授業は分かりやすいと感じている生徒は半数程度。D層が4割、C層を加えると6割を超える状況である。家庭学習の割合は30分以上1時間未満が2割、それに全くまたはほとんどしないと30分未満を合わせると6割になる。通塾の割合は6割で、

市の平均より1割少ない。

新2年生が携帯電話やスマートフォンを操作して、インターネットやメール、SNSに費やす時間は3時間以上が4割を超え、市の平均の2倍以上である。将来の夢や目標を持っていると答えた生徒は、全体で72%、誰かの役に立つ人になりたいと答えた生徒は93%で、市の平均を超えている。

《教科学習の状況》

- 国語科：新2年生で、国語科の意識が高く、話す・聞く能力は市の平均である。
- 社会科：学年を問わず思考・判断・表現の観点の数値が高くなっている。
- 数学科：学力層C,Dが全体の60%に達しており、基礎学力の定着に大きな課題があるが、技能、知識・理解、見方・考え方の3つの観点のバランスはよい。
- 理科：新2年生の理科の意識が高い。新2、3年生で、技能の観点の数値が高くなっている。
- 外国語科：新3年生は英語科に対する意識は低い、表現や理解I「聞くこと」で市の平均となっている。

《経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）》

29年度は、全体的に学習意識、生活意識の低下が見られる。どの学年でも学力層で見るとD層の生徒が教科を問わず市平均よりも多く、基本的な内容を十分に身に付けていない生徒が多い。基礎基本の定着をはかるため、①教師による授業力向上のための組織的な取組②家庭学習の充実を目指す取組③生徒が進んで学習するように心に火をつける取組が必要である。

4 平成30年度 目標と具体的方策

平成30年度 目標

学習の意義や必要性を理解し意欲的に学習に取り組む生徒を育むために、各教科等で「分かる授業」の工夫を行う。各教科の授業において、本日の目標を明確にする。

(1) 学校組織としての共通の取組

○ 教科指導の充実

学習の基本となる教科指導の充実を図るために、教師自身が授業の様子や他教員の授業を分析する機会を増やす。

○ 生徒の意識向上

生徒の学習に対する意欲を高めるために、各教科で目標達成シートを導入し、目的意識を持って授業に臨めるような環境をつくる。また、試験の結果を系統的に整理し、学習成果の変動を生徒自身が実感できるように試験計画づくりを行う。

また、各教科で家庭学習を促すための指導を行い、家庭学習習慣の定着をはかる。

○ 基礎学力向上

四則計算や分数、常用漢字の習得を主な目的とした放課後の学習会を継続的に行い、基礎学力の向上を図る。

(2) 学年・教科等としての取組

国語

- 漢字等基礎的・基本的な内容を計画的に反復学習させるとともに、自らの学習状況を把握できるよう振り返りを行う。
- 生徒の学習意欲を高めるために、実生活に結び付いた言語活動の設定やグループ活動を工夫する。

社会

- 関心をもって学習に取り組ませる為の資料提示の工夫を行う。
- グループワーク等を取り入れ、自らの考えをもち、主体的に学習する態度を育成する。

数学

- 2、3学年で少人数とT、Tの授業を実施し、それぞれのニーズに応じた授業を実践していく。
- 家庭学習を定着させるために教科書・問題集等の基礎的な問題に取り組ませる。

理科

- 実験を中心とした授業構成とし、生徒の主体的な取組を後押しする。
- 実験考察の時間を十分に確保し、生徒の思考力・表現力を高める。

音楽

- 合唱コンクールでは他教科領域の学習と関連付け、生徒がより主体的に学習できるようにする。
- 表現領域では繰り返し練習することで、表現力の向上をめざす。

美術

- 横浜版学習指導要領ベースカリキュラムに基づいた小中9年間を見通した題材配列を考える。
- 生徒一人ひとりが意欲的に表現主題を追究できる魅力的な題材の提供を図る。

技術・家庭

- これまでの既習事項や生活体験を把握し、生徒の資質等も考慮した上で題材設定を工夫する。
- 実践的・体験的活動の充実を図る中で、生徒自ら問題解決できるような場面を工夫する。

外国語

- UNIT全体で子供に身に付けさせる力を明確にして基礎基本の定着を図り、活用する場面を設ける。
- AETとの会話する場面を計画的に設定し、表現力の向上を図る。

特別活動

- 生徒たちの自治能力を育むために、行事や学級での活動の充実を図る。
- すべての活動を通して、他者を思いやる気持ちを育んでいく。(Fphの理念に基づいた活動)

総合的な学習の時間

- 各教科等との関連を図り、横断的で探究的な学習を通して、学び方やものの考え方を身につける。
- 体験で学んだことを整理分析することで、自己の将来について考えを深められるようにする。

個別支援学級

- より実践的な活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。
- 個別の指導計画に基づき、授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図る。

保健体育科は「体育健康プラン」に。道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載する。